

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

RECD 15 APR 2004

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 T-486	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/04841	国際出願日 (日.月.年) 16.04.2003	優先日 (日.月.年) 16.04.2002
国際特許分類 (IPC) Int.Cl' C07D401/12, 401/14, 405/14, 409/14, 413/14, 417/14, 487/04, 495/04, A61K31/454, 31/4709, 31/5377, 31/5415, 31/4545, 31/517, A61P1/00, 11/00, 11/02, 17/00, 27/02, 29/00, 31/18, 37/08, 43/00, 11/06		
出願人（氏名又は名称） 帝人株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。

この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対して訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 2 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I 国際予備審査報告の基礎
- II 優先権
- III 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV 発明の単一性の欠如
- V PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ある種の引用文献
- VII 国際出願の不備
- VIII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 14.11.2003	国際予備審査報告を作成した日 30.03.2004
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 富永 保 電話番号 03-3581-1101 内線 3490
	4P 9159

国際予備審査報告

国際出願番号 PCT/JP03/04841

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。PCT規則70.16, 70.17)

 出願時の国際出願書類

明細書 第 1-14, 16-549 ページ、
 明細書 第 15 ページ、
 明細書 第 _____ ページ、

出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの

請求の範囲 第 1-22, 24-30 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、
 請求の範囲 第 23 項、
 請求の範囲 第 _____ 項、

出願時に提出されたもの
PCT19条の規定に基づき補正されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの

図面 第 _____ ページ/図、
 図面 第 _____ ページ/図、
 図面 第 _____ ページ/図、

出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの

明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、

出願時に提出されたもの
国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
 PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- この国際出願に含まれる書面による配列表
 この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかつたものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲 1 - 3 0 有
請求の範囲 _____ 無

進歩性 (I S)

請求の範囲 1 - 3 0 有
請求の範囲 _____ 無

産業上の利用可能性 (I A)

請求の範囲 1 - 3 0 有
請求の範囲 _____ 無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1 : WO 99/25686 A1

文献2 : WO 00/53600 A1

文献3 : WO 01/10439 A1

説明 :

国際調査報告で引用された上記文献1 - 3には、請求の範囲1 - 3 0に記載された発明は記載も示唆もされていないから、これら発明は新規性・進歩性を有する。

キルスルファモイル基、である(17)～(20)のいずれかに記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容されるC₁～C₆アルキル付加体、

(23) 前記式(I)において、R¹の置換基が、同一または異なって、それぞれ独立にハロゲン原子、ヒドロキシ基、シアノ基、ニトロ基、C₁～C₆アルキル基、又はC₁～C₆アルコキシ基である(17)～(22)のいずれかに記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容されるC₁～C₆アルキル付加体。

(24)(1)～(23)のいずれかに記載の前記式(I)で表される化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容されるC₁～C₆アルキル付加体を有効成分とする、CCR3拮抗作用を有する医薬組成物、

(25)(1)～(23)のいずれかに記載の前記式(I)で表される化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容されるC₁～C₆アルキル付加体を有効成分とする、CCR3が関与する疾患の予防及び／又は治療用組成物、

(26) 前記疾患がアレルギー性疾患である(25)に記載の予防及び／又は治療用組成物、

(27) 前記アレルギー性疾患が、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、又はアレルギー性結膜炎である(26)に記載の予防及び／又は治療用組成物、

(28) 前記疾患が、炎症性腸疾患である(25)に記載の予防及び／又は治療用組成物、

(29) 前記疾患が、エイズ(後天性免疫不全症候群)である(25)に記載の予防及び／又は治療用組成物、

(30) 前記疾患が、好酸球増加症、好酸球性胃腸炎、好酸球増加性腸

R^3 が水素原子であり、 $q = 0$ であり、 $r = 0$ であり、 $p = 1$ である請求の範囲第6項に記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容される $C_1 \sim C_6$ アルキル付加体。

21. 前記式(I)において、 R^4 及び R^5 が、同一または異なって、それぞれ独立に、水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基、シアノ基、ニトロ基、カルボキシル基、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ基、 $C_2 \sim C_7$ アルコキシカルボニル基、 $C_2 \sim C_7$ アルカノイルアミノ基、 $C_1 \sim C_6$ アルキルスルホニル基、アミノ基、カルバモイル基、 $C_2 \sim C_7$ N-アルキルカルバモイル基、スルファモイル基、又は $C_1 \sim C_6$ N-アルキルスルファモイル基である請求の範囲第17項～第20項のいずれか1項に記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容される $C_1 \sim C_6$ アルキル付加体。

22. 前記式(I)において、 R^4 及び R^5 が、同一または異なって、それぞれ独立に、ハロゲン原子、ヒドロキシ基、シアノ基、ニトロ基、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ基、 $C_2 \sim C_7$ アルコキシカルボニル基、 $C_1 \sim C_6$ アルキルスルホニル基、又は $C_1 \sim C_6$ N-アルキルスルファモイル基、である請求の範囲第17項～第20項のいずれか1項に記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容される $C_1 \sim C_6$ アルキル付加体。

23. (補正後) 前記式(I)において、 R^1 の置換基が、同一または異なって、それぞれ独立にハロゲン原子、ヒドロキシ基、シアノ基、ニトロ基、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、又は $C_1 \sim C_6$ アルコキシ基である請求の範囲第17項～第22項のいずれか1項に記載の化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその薬学的に許容される $C_1 \sim C_6$ アルキル付加体。

24. 請求の範囲第1項～第23項のいずれか1項に記載の前記式(I)で表される化合物、その薬学的に許容される酸付加体、又はその